



エコツアーリズムin奥尻

2018年
8/1-3

3年越しの初開催 奥尻の自然や海の幸を堪能

3年前、奥尻町の漁師のおかみさん・高橋さんから「奥尻島には大量の漂着ゴミがあるが、島民や役場の危機意識が低いので観光保全の意識が高まるように講演会や海岸清掃に来て欲しい」と強い要望があり、その年の6月に調査へ出向きました。役場と話し合いましたが、前向きではない印象。その後、企画を提出し打ち合わせするも、回収したゴミの受け入れや、研修や宿舎として町民センターが借りられない等があり断念していました。今春、高橋さんの問題提起と粘り強い交渉の成果で、積丹町役場から良い返事をもらい、念願叶って実現しました。

参加者は15名の熟年精鋭で、3日間の奥尻島での清掃活動に期待しながら札幌を出発しました。瀬棚町からフェリーで奥尻港に到着。遠くにロシアのハバロフスクを見ながら、神威脇温泉で入浴、夕食は島で有名な寿司屋さんで、お寿司や高橋さんからの差し入れの桜貝の酒蒸しなど、島の味覚を堪能しました。

夕食後は海洋研修センターで中根事務局長の「海ごみと生態系の影響について～プラスチック等が与える影響～」と題した講演会を開催しました。海ごみのプラスチックの脅威を動画を使って説明。会場からは「知らなかったことばかりでした。みんなに伝えたい」と真剣な面持ちでした。宿舎は、役場が貸してくれた自治会館で、布団は高橋家のものを総動員。高橋さんも交えた懇親会と打ち合わせに夜が更けていきました。



フェリーで奥尻島へ



島の味覚を堪能



島のシンボル なべつる岩



勉強会 中根事務局長の講座



天然かけ流し温泉





離島の海ゴミ問題に危機感 活動継続へ意欲

2日目。お昼のウニの塩辛入りおにぎりや、連日の猛暑に水分・塩分補給の準備をして清掃場所の賽の河原へ。賽の河原は岬のような地形で、町の要望でその両面を清掃。この場所は、沖に出て帰らぬ人や津波で亡くなった人達に祈りをささげる場です。きれいにして供養したい。全員がそんな気持ちで刺すような日差しの中、懸命の清掃でした。誰も清掃していないのでは？と思えるようなプラごみの劣化の仕方で、ペットボトルを掴もうとすると粉々に砕け、マイクロプラスチックになってしまいます。掃除機を使いたいほどでした。

津波記念碑のモニュメントのところで奥尻島を襲った津波や島の暮らしについて話しながらおにぎりを食べ、午後の活動場所の無縁島海岸へ移動しました。午前中の活動でひざや腰にダメージがある班と元気班に分かれての活動。元気班は役場が希望する岩場で、他の班は海水浴場の砂浜へ移動しました。砂浜は大量の漂着ゴミがベルト状に続いていて時間内に回収できない。もう2,3日滞在してきれいにしたいとみんな思いながら退出。回収したごみは付近で工事をしていた建設会社がボランティアで運んでくれました。

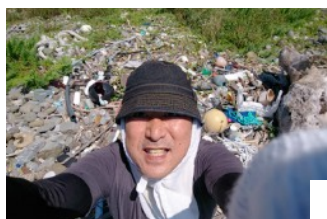
その後、元気組と合流。岩場もまだゴミあり、活動時間を30分延長して清掃。それでもきれいにならない。高橋さんが私たちにSOSを出した気持ちが良くわかりました。島の人口が少ないのに多量の漂着ゴミ。海ゴミは人海戦術でないと回収できない場所も多い。分別収集がしっかりしていないと島外に持ち出し、業者に渡せない。離島の海ごみは色々な問題をクリアしないと解決できない。数十年後には海ごみで海岸が覆われ、観光客が来なくなるのではと心配だ。毎年活動できるよう考えなくてはね。



賽の河原の清掃



炎天下で活動後はクタクタ



無縁島海岸の清掃

